

重点施策		博物館活動の充実		評価実施者		所 属	美術自然史館
				職・氏名		館長 中塚 智勝	

重点施策の概要	目 的	道内の博物館や美術館と連携し、様々な特別展や個性豊かな普及事業を開催するとともに、タキワカイギウや岩橋英遠など収蔵資料の研究や関連資料の収集を進め、地域博物館としての役割を充実します。					
	今年度の主要事業	①特別展の開催「岩橋英遠と北の日本画家たち展」「藤倉英幸 貼り絵の世界」「ダンボールノオオ～紙巨人のひみつち～」「多摩美術大学版画展」 事業費 5,202千円 ②普及事業や教育普及活動の実施「デッサン会」「土曜リカ広場」「月イチリカ室」「わくわくサイエンス」「出前講座」など 事業費 602千円 ③岩橋ふるさと北辰振興会の活動支援と北辰の森・桜並木整備事業の推進 ④土曜日の教育環境を豊かにする「土曜リカ広場」の開催 ⑤遊びながら科学に触れる機会の創出と親子の交流拠点を目的に「春休み こども広場」の実施					

事業の目標と実績			単位	H24	H25	H26	特記事項	
	1	入館者数	目標	人	35,291	35,291	35,291	H26 美術19,292 科学館12,306 郷土1,244
			実績		26,068	32,619	32,842	H25 美術19,384 科学館12,530 郷土 705
	2	(企画展の入場者数) *入館者数の内数	目標	人	10,000	10,300	10,300	H26ダン2,741 多摩1,626岩橋3,033 藤倉1,127
			実績		7,020	12,659	8,527	H25 岩橋6,803フィールド2,403人造1,135夏休み2,238
	3	(市内小中学生の入場者数) *入館者数の内数	目標	人	3,000	3,000	3,000	学校の授業の一環として入場した数
			実績		669	2,058	1,148	・H25 延べ37校 ・24 延べ12校
	4	(普及事業の参加者数) *出前講座以外は入館者数の内数	目標	人	2,074	2,074	2,074	H26デッサン会160人月イチリカ378わくわく99人
			実績		1,712	2,665	3,182	H25デッサン会143人月イチリカ354わくわく90人
	5	年間パスポートの発行数	目標	枚	1,000	1,000	1,000	H26一般497高校生1中学生6小学生239
			実績		646	746	743	H25一般548高校生2中学生4小学生192
	6	年パス購入者の再来館回数	目標	人	1,500	1,500	1,500	平均再来館回数 H25～2.52回 H26～2.85回
			実績		1,268	1,882	2,123	*購入日も来館回数にカウント
	7	(学校団体受入生徒数) *入館者数の内数	目標	人	5,000	5,000	5,000	保育所・小中高生の団体受入数
実績				5,536	6,211	5,059	H25～189団体 H26～156団体	

事業の分析 効果の検証	・入館者数としては、前年比223人増であった。企画展の入場者が減とした中、総体の入館者数が増えた要因として普及事業の参加者の増、年間パスポート持参者のリピーターの増、「春休み こども広場」(入館者 1,459人)の実施によるものと考えられる。 また、郷土館は前年比56.6%増の1,244人となり、年間パスポートの対象施設として加えた効果と考える。 ・企画展は、岩橋英遠に関連する展覧会が前年に比べ減少しているが、H25は授業の一環として観覧の受け入れを整えた違いで差が出たものと考えられる。今後は滝川市に関連する企画展の場合は、小中学校の授業の一環で観覧する受け入れが必要である。 ・こども科学館は、新たな事業として土曜日の教育環境を豊かにすることを目的に、小学校に出向いて科学実験等を行う「土曜リカ広場」を実施、こども科学館を持つ「教育のまち たきかわ」にふさわしい理科教育の推進が図られた。また、春休み期間中に実施した「春休み こども広場」においては、遊びの中で科学の楽しさを実感でき、公園が使用できない時期でもあり親同士の交流の場となり、子育て支援の一助にもなった。	
	課題	●学校との連携強化をより一層図り、地域の教育施設としての更なる活用 ●こども科学館の通年「こども広場」とした施設活用 ●アウトリーチ事業として実施している「出前講座(ちびはく)」を機に館に呼び込む仕組みづくり

評価	A 評価の視点1 期待どおりの効果があったか 企画展の関連事業や魅力ある普及事業の実施により、年間パスポート持参者のリピーターも増え、入館者増にもつながった。 評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 今後も魅力ある企画展や普及事業を継続して実施し、入館者の増に結びつける。あわせて博物館の使命で ある収集・保存・調査研究・展示にも取り組んで行きたい。
----	---

【評価の区分】

A: 期待どおりの成果が得られ、今後も事業を継続する
 B: ほぼ期待どおりの成果が得られたが、さらなる発展のため事業を見直す余地がある
 C: 概ね期待した成果は得られたが、事業の見直しが必要である。
 D: 期待する成果が得られず、廃止も含めた見直しが必要

事業の今後の方向性	①文化勲章受章者である日本画家・岩橋英遠芸術と北海道の天然記念物であるタキワカイギウを滝川市の歴史的な文化を代表するシンボリックな存在として発信し続けていく。 ②こども科学館においては、「月イチリカ室」、「土曜リカ広場」など身近な科学の実験を通じて子ども達の科学に対する関心や興味を広げる事業展開を図る。 ③2階の常設展示室(3室)にピクチャールールを敷設して、市民ギャラリーやコンパクトな収蔵展としても活用できる展示室にし、新たな賑わい創出の場となる方向を目指す。 ■ 拡充 □ 縮小・統廃合 ■ 質的向上 □ スピードアップ ■ 検証 ■ 継続
-----------	---

◎外部評価委員の評価・意見等

点検・評価に関するコメント	小中学生の入場者増には学校のカリキュラムがあるので、早めに案内するなどの工夫が必要。
---------------	--